

歯科衛生学

[講義・演習] 第2学年 前後期 必修 1単位

《担当者名》専任教員 / 岡橋 智恵 / 大山 静江 / 千葉 利代 / 山形 摩紗

【概要】

歯科衛生学 では歯科衛生過程（対象者の抱える問題を明確にし、問題の解決法を計画し介入していくために必要な一連の思考と行動のプロセス）を実施するために必要な知識・技術・態度を習得する。

【学修目標】

歯科衛生過程の基本的な考え方を説明できる
 歯科衛生過程の概要と構成要素について説明できる
 歯科衛生アセスメントについて説明できる
 歯科衛生診断について説明できる
 歯科衛生計画立案について説明できる
 歯科衛生介入と業務記録について説明できる
 歯科衛生評価について説明できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	オリエンテーション 一般目標 行動目標 歯科衛生過程とは 歯科衛生過程を進めるうえで重要な考え方 歯科衛生の視点・観点 ICFについて ヒューマンニーズ概念モデル	講義 一般目標、行動目標を理解する。 歯科衛生過程を利用する目的を理解できる。 歯科衛生過程の構成要素について説明できる。 ICFについての演習ができる。	岡橋 智恵
3) 4	利用する症例の情報 歯科衛生アセスメント 1. アセスメントの手順 2. 情報収集の方法と情報の種類（問診票の作成演習） 3. 情報の記録 4. 情報分類 発表とグループワーク	講義・演習 症例の内容を確認する。 （健康調査票、口腔内写真、歯式・歯周精密検査、会話記録、記録用紙） 対象者から得る情報を主観的情報と客観的情報とに整理・分類できる。	岡橋 智恵
5) 6	前回の復習 歯科衛生アセスメント 1. 解釈・分析（情報の意味） 発表とグループワーク	講義・演習 対象者の問題点（症状や徴候）とその原因に分けて整理し、分析できる。 収集した情報を歯科衛生士の専門的視点（ヒューマンニーズ概念モデルの応用）から整理・分類できる。	岡橋 智恵
7) 8	前回の復習 歯科衛生診断の作成 1. 問題・強み 2. 原因・関連因子 3. データ不足 発表とグループワーク	講義・演習 前回の復習で理解度を確認する。 整理した情報から「問題・強み」を抽出する。 問題に対する「原因」またそれに関連する因子を抽出できる。 情報の不足部分を抽出できる。	岡橋 智恵
9) 10	前回の復習 歯科衛生診断の作成 1. 診断句 2. 原因句 3. 優先順位 発表とグループワーク	講義・演習 歯科診断と歯科衛生診断の違いについて学ぶ。 診断句を考えることができる。 原因句を考えることができる。 科学的根拠に基づいた優先順位の決定について学ぶ。	岡橋 智恵
11)	前回の復習 歯科衛生計画立案	講義・演習 対象者の問題解決に向けて長期目標および短期目標	岡橋 智恵

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
12	1. 長期目標ならびに短期目標の設定 2. 目標設定の留意点 発表とグループワーク	を設定について学ぶ。 歯科衛生計画の種類・内容について学ぶ。	
13) 14	前回の復習 歯科衛生介入(歯科衛生計画の実施) 1. 歯科衛生介入の記録(業務記録) 歯科衛生評価(プロセスと結果の評価) 1. 目標達成度 2. 対象者満足度 3. 要因分析	講義 歯科衛生介入の準備、実施方法について学ぶ。 歯科衛生介入の記録の記述方法について学ぶ。 記録方法のルールについて理解する。 歯科衛生評価方法について学ぶ。	岡橋 智恵
15	まとめ 最終課題について	歯科衛生過程の記録を確認する。 記録未記入の部分を記載をする。 最終課題について説明する。	岡橋 智恵

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題レポート・・・80%

受講態度・・・20%

以上を総合的に判断する

【教科書】

「最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論」医歯薬出版

【参考書】

「よくわかる 歯科衛生過程」医歯薬出版」

【学修の準備】

予習(30分)：指定した教科書の授業内容に対応する項目を事前に読んでおくこと。

復習(45分)：記録用紙と講義資料を確認しておく。

【実務経験】

岡橋 智恵(歯科衛生士)

【実務経験を活かした教育内容】

歯科衛生士としての実務経験を通じて得た知識・技術・態度などを活用し、実践的な教育を行う